

授業 科目名	地域歯科衛生学 (Dental public health)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403)
			コード: DHH271	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、Ⅳ健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、歯科衛生士として適切な歯科保健活動や歯科保健指導を実践するための地域歯科保健に関する知識を修得できるようにする。とくに、地域で生活している人々の健康生活を支援するための地域歯科保健活動の目的、対象、内容、評価方法を理解できるようになる。				
〔授業の概要〕 地域歯科衛生学は、地域の個人や集団を対象に口腔保健の向上を通じて健康支援を考える領域であり、在宅、学校、職域等の場で健康や生活の質（QOL）の向上を目指して展開される。この授業では、地域歯科保健の現状や課題に対して主体的に取り組み、基本的知識や制度等を学修する。本授業は大川が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 歯科保健活動、母子歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健、成人・高齢者歯科保健				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/2	地域歯科保健の概要	健康づくり対策と地域歯科保健	
第 2 回	10/9	歯科保健の現状・動向	わが国の歯科保健の現状と課題	
第 3 回	10/16	母子歯科保健	母子歯科保健の意義・特徴・活動内容	
第 4 回	10/23	学校歯科保健	学校歯科保健の意義・特徴・活動内容	
第 5 回	10/30	成人歯科保健	成人歯科保健の意義・特徴・活動内容	
第 6 回	11/6	高齢者歯科保健	高齢者歯科保健の意義・特徴・活動内容	
第 7 回	11/13	産業歯科保健	産業歯科保健の意義・目的・特徴・活動内容	
第 8 回	11/20	国際協力 災害時の歯科保健	世界の歯科保健の状況・国際協力の現状 被災地での歯科保健活動、歯科的個人識別	
履修条件		特になし		
予習・復習		授業に関する資料を配布するので、予習・復習に活用すること。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で資料を配布する。		
学生に対する評価		定期試験（90%）、学修態度（10%）により総合的に評価する		

授業 科目名	地域歯科衛生演習 (Seminar on dental public health)	履修年次: 必修: 歯 3 年	単位数: 1 単位 30 時間 コード: : DHH371	担当教員名: 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナルリズム、Ⅱコミュニケーション能力、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・地域の人々の生活実態、地域の社会資源などの地域特性を理解できるようにする。 ・地域歯科保健活動に必要な地域診断の目的や評価方法を理解できるようにする。 ・歯科保健教育の企画や実施、評価方法を理解できるようにする。				
〔授業の概要〕				
「地域歯科衛生学」で学修した知識をもとに、地域における人々の健康づくりに必要な技術を身につけ、生涯にわたる発展的学修につなげるために、演習を通じて、地域歯科保健活動にかかわる地域診断、計画立案、実施、評価、対象別の歯科保健教育などの展開方法を修得できるようにする。本授業は大川が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 地域特性、地域診断、地域歯科保健活動、歯科保健教育				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1・2 回	4/8	ガイダンス 地域診断と歯科保健活動	履修の準備、受講に関する注意事項 地域における歯科衛生士活動の実際 地域診断・歯科医療提供体制	
第 3・4 回	4/15	地域歯科保健活動の実践 母子歯科保健活動	母子歯科保健活動事例研究	
第 5・6 回	4/22	地域歯科保健活動の実践 学校歯科保健活動	学校歯科保健活動事例研究	
第 7・8 回	5/13	地域歯科保健活動の実践 成人・産業歯科保健活動	成人・産業歯科保健活動事例研究	
第 9・10 回	5/20	地域歯科保健活動の実践 高齢者歯科保健活動	高齢者歯科保健活動事例研究	
第 11・12 回	5/27	地域歯科保健活動 研究事例報告(1)	事例研究の発表	
第 13～15 回	6/3	地域歯科保健活動 研究事例報告(2)・まとめ	事例研究の発表・全体の総括	
履修条件		2年後期に開講する地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。		
予習・復習		実習に関する資料を配布するので活用すること。授業の課題について積極的に取り組むこと。		
テキスト		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		課題 (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	衛生行政 (Health Administration)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: DHH270	担当教員名: 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403)
〔DP〕 I 倫理感とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、V 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 高齢化の進行により社会環境が変化する中で、歯科衛生士は、その業務や役割を認識し、他の医療専門職種との連携を推進することが求められている。本授業では、歯科衛生士の身分や業務に関連する衛生法規、歯科保健医療にかかわる関連法規を学修することで、歯科衛生士の具体的な活動分野を広く理解できるようになる。				
〔授業の概要〕 衛生行政の授業では、口腔保健に携わる専門家として国民の健康増進と適切な歯科保健医療を提供するために必要な保健・医療・福祉等に関わる組織、制度、法律を学修することにより、その内容を理解できるようになる。本授業は大川が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 歯科衛生士法、歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健法、医療法				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/1	歯科衛生士と法律 歯科衛生士法（1）	衛生法規の目的と組織、歯科関係法規の概要 歯科衛生士法の沿革・目的・定義	
第 2 回	10/8	歯科衛生士法（2）	歯科衛生士の業務	
第 3 回	10/22	歯科衛生士関連法規（1）	歯科医師法、歯科技工士法、歯科口腔保健法	
第 4 回	10/29	歯科衛生士関連法規（2）	医療法	
第 5 回	11/5	医療関係職種	医療関係職種に係わる法規	
第 6 回	11/12	その他の関係法規（1）	薬事衛生法規	
第 7 回	11/19	その他の関係法規（2）	地域保健関連法規	
第 8 回	11/26	社会保障・医療の動向	社会保険、国民医療費等	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「保健・医療・福祉の制度」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験（90%）、学修態度（10%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	国際歯科衛生学 (International Dental Hygiene Science)	履修年次: 選択 歯3年	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 荒川 真[歯科医師] (研究室:A405)
			コード: DHH322	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽、VI 多職種との協働、II コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 海外の保健医療・歯科衛生士活動ならびに、国際保健医療分野における国際協力について知識を得る。 また、それらの概要を説明し、自身の意見を述べることができる。				
〔授業の概要〕 海外の保健医療・歯科衛生士活動ならびに、国際保健医療分野における国際協力について概要を理解し、 国際的視点から保健医療を捉え、人々の健康支援に貢献するための基本的知識を修得する。 具体的には、日本発の国際協力、特に国際保健医療分野についての活動を理解し、国際的視点から保健 医療を学ぶ。また、海外における歯科衛生士をはじめとした歯科医療従事者の活動ならびに日本と海外 の活動について知り、海外における活動の課題や日本における活動との違いについて学ぶ。				
キーワード: 国際交流、国際協力、グローバルヘルス、国際歯科衛生士連盟				
〔授業計画〕				水曜日 IV限
(※過去の例。詳細な内容は受講生と相談しつつ選択、変更する。)				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/10	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項および授業の進め方	
第2回	4/17	グローバルヘルス	グローバルヘルスにおける健康課題と対応策	
第3回	4/24		HIV/AIDS、結核、マラリア、インターナショナルヘルス	
第4回	5/1	国際交流	ODA、NGO、技術移転、PDCA サイクル、異文化理解	
第5回	5/8			
第6回	5/15	海外における歯科衛生 士の活動	国際歯科衛生士連盟について	
第7回	5/22		北米・北欧・アジアにおける歯科事情と歯科衛生士の養 成と活動	
第8回	5/29			
履修条件		特になし。		
予習・復習		活発な議論を展開するためおよび関連情報の収集と授業の振り返りに、予習・ 復習が必要。		
テキスト		必要時に適宜紹介する		
参考書・参考資料等		外務省、JICA , WHO および IFDH のホームページ		
学生に対する評価		課題 (50 %) およびレポート (50 %) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科医療管理論 Dental practice management and administration	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名： 相川 敬子[歯科衛生士]、 木暮 麻優[歯科衛生士] (非常勤講師室)
		選択：歯 4 年	コード: DHH223	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 超高齢社会を迎え、歯科医療機関に勤務する歯科衛生士にも全身状態を考慮し、継続的な口腔健康管理能力が求められている。また、歯科疾患の総合的管理、医療安全管理の推進など歯科衛生士に期待される役割は大きい。そこで、この授業では講義形式により、歯科医療の質を高め、効率的、効果的、安全に患者に提供するという歯科医療管理の基本的な考え方および必要性を学び、実践できるようになることを目的とする。				
〔授業の概要〕 歯科衛生士として歯科医療管理を担うために、病院歯科と歯科診療所におけるマネジメントの基本的な考え方を理解するとともに歯科疾患の予防的・継続的な管理および有病者・要介護者の口腔健康管理について学び、医療・介護の現場における実践力を養う。				
キーワード：医療安全、予防歯科、歯周疾患継続的管理、有病者歯科、在宅療養指導				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第 1 回	4/11	ガイダンス、歯科診療所における医療安全管理、歯科疾患の予防的管理	ヒヤリ・ハットを含むインシデント事例と対策。歯科疾患の予防とリスク管理、学校歯科保健の実際	相川 敬子
第 2 回	4/18	歯科診療所における歯周疾患の継続的管理（1）	妊婦への対応について 歯周疾患の基本的な知識	相川 敬子
第 3 回	4/25	歯科診療所における歯周疾患の継続的管理（2） 有病者・要介護者の口腔健康管理	歯周疾患の継続的管理における歯科衛生士の役割と訪問歯科診療の実際について	相川 敬子
第 4 回	5/2	病院歯科における医療管理（1）	病院勤務の歯科衛生士の業務 他職種との連携、医療安全、感染対策について理解する	木暮 麻優
第 5 回	5/9	病院歯科における医療管理（2）	歯科衛生士としての目標設定や達成方法 患者とのコミュニケーションについて理解する	木暮 麻優
第 6 回	5/16	病院歯科における医療管理（3）	習得した意識や技術と実際の臨床との関連づけを理解する 有病者、高齢者への対応を知る	木暮 麻優
第 7 回	5/23	介護老人保健施設における医療管理	介護老人福祉施設に置ける医療管理	特別講義講師
第 8 回	5/30	まとめ	振り返り学習によるまとめ	相川 敬子
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として学んできたテキストを再読。復習として資料の見直しを推奨		
テキスト		特になし。資料配布		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		定期試験（80%）、学習態度（20%）により総合的に評価する		

授業 科目名	社会保障・社会保険論 Social security and social insurance	履修年次:	1 単位 1 5 時間	担当教員名: 上條英之[歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯 3 年	コード: DHH273	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
歯科医療の現場では歯科衛生士として業務上必要とされる社会保障および社会保険の知識の習得が必須である。本授業科目では、社会保障と社会保険の制度について、その仕組みと制度の詳細、制度改正の展望について、基本知識の習得を図ることが授業の到達目標となる。また、本授業のテーマは、社会保障制度の中での歯科保健医療の位置づけと歯科医療従事者の役割を考えることである。				
〔授業の概要〕				
社会保障制度として位置づけられている社会保険並びに生活保護、社会福祉について講義により知識習得を行う。特に、社会保険については、歯科医療との関わりが強い医療保険、介護保険の他、年金、労働保険について学習する。授業では、社会保障、社会保険に関する法律や制度の理解を円滑化する。				
キーワード: 医療保険、国民皆保険制度、国民医療費、介護保険、健康寿命				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	4/8	社会保障制度の概要と法	社会保障を学ぶ意義、制度の概要、機能、給付費の推移、法律の概要、UHC、健康寿命	
第 2 回	4/15	社会保険、医療保険制度	社会保険の特徴、種類、医療保険制度の概要	
第 3 回	4/22	医療保険制度	医療サービスを保障する仕組み、医療提供体制と医療計画	
第 4 回	5/13	介護保険制度	医療と介護の連携、介護保険制度の仕組み	
第 5 回	5/20	介護保険制度、年金	介護保険サービス、地域包括ケア、年金制度の特徴	
第 6 回	5/27	労働保険	失業時の所得保障の仕組み、業務事故の補償の仕組み	
第 7 回	6/3	生活保護と社会福祉制度	生活保護の原理・原則、給付内容、生活困窮者自立支援、児童福祉、障害者福祉、社会手当	
第 8 回	6/10	授業の総括	社会保障制度と社会保険のまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習は教科書の熟読、復習は授業配布資料等による自主学習が望ましい		
テキスト		歯科保健医療に関連する社会保障制度と関係法規 上條英之著 アナトーム社		
参考書・参考資料等		はじめての社会保障 (有斐閣)、保険と年金の動向(厚生労働統計協会)等		
学生に対する評価		定期試験 (90%) と学習態度 (10%) により評価		

授業 科目名	歯科診療室基礎実習 (Basic clinical practice in dental clinic)	履修年次:	単位数: 2 単位 90 時間	担当教員名: 山中紗都 [歯科衛生 士] (研究室: 教育棟 A410) 酒巻裕之[歯科医師], 大川由一 [歯 科医師], 荒川 真[歯科医師], 佐々 木みづほ[歯科医師], 栗原涼子[歯科 衛生士], 松木千紗 [歯科衛生士], 石川裕子[歯科衛生士], 鈴鹿祐子[歯 科衛生士], 西村克枝[歯科衛生士]
		必修: 歯 3 年	コード: DHP331	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, III 実践に必要な知識, II コミュニケーション能力				
[授業の到達目標及びテーマ]				
・ 歯科診療の基本を実際の歯科診療場面を通じて学び、歯科衛生士の業務内容・役割を理解する。 ・ 歯科治療の概要が説明できる。 ・ 基本的な感染予防対策・医療安全・歯科診療介助及び補助について理解できる。 ・ 診療室のスタッフおよび患者とのコミュニケーションが取れる。				
[授業の概要]				
本学併設の歯科診療室において、歯科医師、歯科衛生士教員の指導の下、講義、演習で身につけた基礎知識、技術を臨床に結びつける。具体的には患者対応、歯科診療室の管理、診療室の滅菌・消毒システムの習得、歯科診療補助における共同動作、診療室内の医療安全などについての基礎的な部分を理解する。				
キーワード: 歯科診療室, 患者対応, 滅菌・消毒, 診療補助, 共同動作				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1～4回	6/4	ガイダンス	実習の進め方、評価について 歯科診療室の管理、医療安全について	山中紗都
第5～45回	6/5 ～ 7/30	共同動作 *2班編成もしくは、数名 ずつ実施	歯科診療室の管理 医療安全 感染予防対策 診療の前準備と後片付け 歯科診療の補助・介助 ・患者対応 ・滅菌・消毒 ・器材準備・治療の流れ 口腔内歯科用エックス線の撮影方法 ほか	栗原涼子 酒巻裕之 大川由一 荒川 真 佐々木みづほ 松木千紗 石川裕子 鈴鹿祐子 西村克枝
履修条件		①保健医療基礎科目および専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。 ②歯科診療補助演習の単位修得見込みであること。		
予習・復習		実習前には必要な知識の確認を行い、実習後には知識、技術の確認と振り返りを行うこと。		
テキスト		チームステップス[日本版] 医療安全-チームで取り組むヒューマンエラー対策 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部編 メジカルビュー社刊		
参考書・参考資料等		指定しない。授業のなかで適宜紹介する。参考資料を配布する。		
学生に対する評価		学習態度 (50%)、課題・レポート (50%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科診療所実習 (Clinical practice in dental clinics)	履修年次: 必修: 歯 3 年	単位数: 4 単位 180 時間	担当教員名: 科目責任者 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403) 鈴鹿祐子[歯科衛生士] 荒川 真[歯科医師] 山中紗都[歯科衛生士]
		コード: : DHP333		
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅰ倫理感とプロフェッショナリズム、Ⅱコミュニケーション能力、Ⅴ健康づくりの環境の整備 改善
--

〔授業の到達目標及びテーマ〕
歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助に関する基本的知識・技術を歯科診療所の指導者の下で学修する。 ①歯科治療の概要について説明できる。②適切な患者対応と基本的な歯科診療補助について理解できる。③基本的な歯科予防処置および歯科保健指導について理解できる。④感染予防・医療安全管理について説明できる。 ⑤歯科診療スタッフおよび患者とのコミュニケーションが取れる。⑥歯科衛生士の業務内容や役割について説明できる。

〔授業の概要〕
歯科診療所における歯科衛生士の役割と業務を理解し、歯科診療補助、歯科保健指導、歯科予防処置の基本的知識・技術を歯科診療所の指導者の下で実践的に学修する。歯科医療専門職の役割とチーム歯科医療について理解するとともに、歯科診療スタッフおよび患者とのコミュニケーション能力を養う。県内歯科診療所で 4 週間の実習を行い、期間中の毎週木曜日に全員が集合し、歯科医師ならびに歯科衛生士の実務経験のある教員とともに実習報告会を開催する。

キーワード: 歯科診療所、歯科衛生士業務、チーム医療、コミュニケーション、医療安全

〔授業計画〕																																
<table><tr><td>回 数</td><td>日付</td><td>テ ィ マ</td><td>内 容</td><td>担 当</td></tr><tr><td>第 1 回</td><td rowspan="8">10/1 ～ 11/29</td><td>ガイダンス</td><td>歯科診療所実習オリエンテーション</td><td>大川由一</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>歯科診療所訪問</td><td>実習歯科診療所訪問・打ち合わせ</td><td>鈴鹿祐子</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>特別講義</td><td>千葉県の歯科保健医療の現状</td><td>県歯科医師会会長</td></tr><tr><td>第 4～24 回</td><td rowspan="4">歯科診療所実習 (4 週間)</td><td>地域における歯科診療所の役割</td><td rowspan="4">大川由一 鈴鹿祐子 荒川 真 山中紗都</td></tr><tr><td>第 25～44 回</td><td>診療業務における歯科衛生士の役割</td></tr><tr><td>第 45～64 回</td><td>チーム歯科医療の理解と実践 コミュニケーションによる患者支援</td></tr><tr><td>第 65～84 回</td><td>感染予防・医療安全管理 歯科材料・器材の理解と取り扱い</td></tr><tr><td>第 85～90 回</td><td>まとめ・発表</td><td>臨床実習の総括 (時間外学修含む)</td><td></td></tr></table>	回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担 当	第 1 回	10/1 ～ 11/29	ガイダンス	歯科診療所実習オリエンテーション	大川由一	第 2 回	歯科診療所訪問	実習歯科診療所訪問・打ち合わせ	鈴鹿祐子	第 3 回	特別講義	千葉県の歯科保健医療の現状	県歯科医師会会長	第 4～24 回	歯科診療所実習 (4 週間)	地域における歯科診療所の役割	大川由一 鈴鹿祐子 荒川 真 山中紗都	第 25～44 回	診療業務における歯科衛生士の役割	第 45～64 回	チーム歯科医療の理解と実践 コミュニケーションによる患者支援	第 65～84 回	感染予防・医療安全管理 歯科材料・器材の理解と取り扱い	第 85～90 回	まとめ・発表	臨床実習の総括 (時間外学修含む)	
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担 当																												
第 1 回	10/1 ～ 11/29	ガイダンス	歯科診療所実習オリエンテーション	大川由一																												
第 2 回		歯科診療所訪問	実習歯科診療所訪問・打ち合わせ	鈴鹿祐子																												
第 3 回		特別講義	千葉県の歯科保健医療の現状	県歯科医師会会長																												
第 4～24 回		歯科診療所実習 (4 週間)	地域における歯科診療所の役割	大川由一 鈴鹿祐子 荒川 真 山中紗都																												
第 25～44 回			診療業務における歯科衛生士の役割																													
第 45～64 回			チーム歯科医療の理解と実践 コミュニケーションによる患者支援																													
第 65～84 回			感染予防・医療安全管理 歯科材料・器材の理解と取り扱い																													
第 85～90 回		まとめ・発表	臨床実習の総括 (時間外学修含む)																													

履修条件	健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年次前期までに配当されている全ての必修科目の単位を修得済みであること。
予習・復習	実習に関する資料を配布するので、あらかじめ目を通しておき、予習・復習に活用すること。また、事前学修の課題について積極的に取り組むこと。
テキスト	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	実習評価 (60%)、実習レポート (10%)、課題 (20%)、学修態度 (10%) により総合的に評価する。

授業 科目名	病院実習 (clinical practice in a hospital)	履修年次: 必修: 歯 4 年	単位数: 3 単位 135 時間 コード: DHP434	担当教員名: 酒巻裕之[歯科医師]、 石川裕子[歯科衛生士]、 佐々木みづほ[歯科医師]、 松木千紗[歯科衛生士] (A408 研究室)
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
病院内の歯科・歯科口腔外科の役割ならびに勤務する医療従事者の役割や仕事内容を理解し、適切な歯科衛生業務ができるようになるために、患者の心身状態に特別な配慮が必要な症例について施される患者中心の全人的医療とそのために必要な多職種連携ならびに環境整備を理解する。				
〔授業の概要〕				
病院における歯科衛生士の役割、口腔外科・歯科麻酔科の役割、受診者の状況、仕事の流れを知り、医療専門職の役割と多職種間の協働について体験を通じて理解する。医療依存度が高い通院・入院中の患者に対する診療やケアについての基本的知識ならびに態度を修得する。臨地実習期間は3週間。本授業は、病院実習先の歯科医師、歯科衛生士、看護師等の専門職の実務経験に基づき臨床の場における学習の支援を行う。				
キーワード: 口腔健康管理、全身管理、観血的処置、特別な配慮を要する患者への対応、医療安全				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担 当
第1回	9/17	臨床実習ガイダンス	履修準備、受講の注意点、授業の進め方	酒巻裕之
第2回	9/17	オリエンテーション①	病棟における周術期管理	特別講義講師 酒巻裕之
第3,4回	9/18	オリエンテーション②	病院の歯科・口腔外科ならびに歯科衛生士の役割	特別講義講師 酒巻裕之
第5-64回	9/17- 10/11	病院実習 A	病院内の見学 臨床講義 外来患者の診療補助 手術の見学実習 歯科インプラント治療の見学実習	実習指導者 酒巻裕之 石川裕子 佐々木みづほ 松木千紗
	10/15- 11/1	病院実習 B	病棟実習 入院患者の口腔健康管理 歯科治療時の患者管理と救急処置の実際	
	11/5- 11/22	病院実習 C	全身管理下の歯科診療補助 有病者、障害者の歯科診療補助 放射線部・検査部の見学	
第65-68回	11/28	病院実習まとめ、発表会	病院歯科・口腔外科の歯科衛生士の役割	酒巻裕之

履修条件	保健医療基礎科目及び専門科目のうち、4年次前期までに配当されている全ての必修科目の単位を修得済みであること。一般歯科治療の診療介助がスムーズできること 診療介助に必要な口腔外科、歯科麻酔科、有病者歯科、障害者歯科の治療について説明できること。
予習・復習	実習前は、入院患者の状態、歯科診療の流れと準備器材、歯科材料の知識と取扱い等について予習を行うこと。実習後に知識、技術の習得が不十分な項目を復習すること。
テキスト	歯科衛生学シリーズ「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊
参考書・参考資料等	イラストでみる口腔外科手術 第1~4巻 クインテッセンス刊、歯科衛生士のための口腔内科、山根源之 他編著 医歯薬出版刊、歯科衛生士必須 有病者歯科学 日本有病者歯科医療学会編 永末書店刊
学生に対する評価	実習施設実習評価、課題、学習態度(80%)、本学歯科衛生学科:課題、登校日等の態度(20%)により総合的に評価する。

授業 科目名	継続・個別支援実習Ⅰ (Dental prophylactic treatment practice)	履修年次: 必修: 歯3年	単位数: 2単位 90時間 コード: DHP441	担当教員名: 鈴鹿祐子[歯科衛生士] (研究室 教育棟A404) 石川裕子[歯科衛生士], 山中紗 都 [歯科衛生士] 松木千紗, [歯科衛生士], 酒巻裕之[歯科 医師], 荒川 真[歯科医師],
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅱ コミュニケーション能力, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 講義, 演習で習得した歯科予防処置・歯科保健指導の知識, 基本技術を総合し, 教員の監視下で対象者のニーズに応じた個別, 継続支援の実践的方法を習得することを目的とする。				
〔授業の概要〕 3年次は同意を得た実習協力者5名に対して, 協力者の希望を把握し, 歯科衛生士, 歯科医師の実務経験のある教員の支援, 監視下で, 成人に対して歯石除去, 歯面研磨などの歯周病予防処置, ブラッシング指導を含む歯科保健指導を実施する。4年次の継続・個別支援実習では, 協力者のうち2回以上来学者1名について症例報告を行う。本実習では協力者ごとに実習記録として歯周病予防処置記録, 協力者情報の記録, 歯科保健指導記録, 歯科衛生過程の記録を作成する。また, 実習終了までの学びと成長を記録するポートフォリオを作成する。学生は2班編成で「歯科診療室総合実習」と本実習を行う。 【3年後期】10/1: オリエンテーション, <B班>11/25~12/23, <A班>1/6~2/6				
キーワード: 口腔内写真撮影, TBI, スケーリング, 歯科衛生過程, ポートフォリオ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1~42回	11/25 ~2/6	継続・個別 支援実習①	・ガイダンス (実習の進め方, 評価について) ・歯科衛生過程による記録法 ・指導用媒体(2種)の作成 歯周病予防, フレイル, がん治療と口腔管理, 糖尿病と歯周病, 口腔乾燥, TCH ・協力者3名へ必要な歯科予防処置・歯科保健指導の実施 対象者情報の聞き取り, 口腔観察 (歯式, 歯周ポケット検査, 動揺度測定, GI, PCR, 舌・口唇・粘膜の状態) 口腔内写真撮影 (5枚法) ・TBI (ブラッシング指導) 歯石除去, 着色除去, 歯面研磨, PMTC, 歯肉マッサージほか *可能であれば3名のうち1名リコール (4年前期) をお行う。	鈴鹿祐子 石川裕子 山中紗都 松木千紗 酒巻裕之 荒川真
第43~45回		まとめ	振り返り, リコールの準備, 指導用媒体について	鈴鹿祐子
履修条件	継続・個別支援実習を履修するには, 保健医療基礎科目及び専門科目のうち, 3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。			
予習・復習	実習前には, 習得したスケーリングに関する基本技術と患者対応の基本とコミュニケーション法, 歯周病に関連する全身疾患, 生活習慣について復習することが望ましい。実習中も適宜不足している知識, 技術の復習に努めること。			
テキスト	特になし。実習ハンドブックを配布する。			
参考書・参考資料等	指定しない。実習中に適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題 (記録, 媒体, 口腔内写真など) 70%, 学習態度 (30%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	継続・個別支援実習Ⅱ (Dental prophylactic treatment practice)	履修年次: 必修: 歯4年	単位数: 2単位 90時間 コード: DHP442	担当教員名: 鈴鹿祐子〔歯科衛生士〕 (研究室 教育棟A404) 石川裕子〔歯科衛生士〕, 山中紗 都〔歯科衛生士〕 松木千紗, 〔歯科衛生士〕, 酒巻裕之〔歯科 医師〕, 荒川 真〔歯科医師〕,
〔授業の到達目標及びテーマ〕 講義, 演習で習得した歯科予防処置・歯科保健指導の知識, 基本技術を総合し, 教員の監視下で対象者のニーズに応じた個別, 継続支援の実践的方法を習得することを目的とする。				
〔授業の概要〕 4年次は同意を得た実習協力者5名に対して, 協力者の希望を把握し, 歯科衛生士, 歯科医師の実務経験のある教員の支援, 監視下で成人に対しては歯石除去, 歯面研磨などの歯周疾患予防処置, ブラッシング指導を含む歯科保健指導を実施する。3年次後期協力者について, 2回の口腔状況の変化・改善状況について資料を作成し, 症例報告を行う。または, 2名の協力者の口腔状況について比較した資料を作成し, 症例報告を行う。本実習では協力者ごとに実習記録として歯周病予防処置記録, 協力者情報の記録, 歯科保健指導記録, 歯科衛生過程の記録を作成する。また, 実習終了までの学びと成長を記録するポートフォリオを作成する。 学生は2班編成で「歯科診療室総合実習」と本実習を行う。 A班: 12人 B班: 12人 【4年前期】 <B班> 4/10～5/2 <A班> 5/7～5/31 キーワード: 歯周病予防処置, 口腔衛生管理, 歯科衛生過程, ポートフォリオ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1～42回	4/8 ～ 5/31	継続・個別 支援実習②	・ガイダンス (実習の進め方, 症例発表について) ・実習協力者4名へ必要な歯科予防処置・歯科保健指導の実施 (4名中, 1名はリコール者) - 対象者情報の聞き取り - 口腔観察 (歯式, 歯周ポケット検査, 動揺度測定, GI, PCR, 舌・口唇・粘膜の状態), 口腔内写真撮影, TBI (ブラッシング指導), 歯石除去, 着色除去, 歯面研磨, PMTC, 歯肉マッサージ ほか *症例発表資料の作成 - 特別講義「ホワイトニング実習」	鈴鹿祐子 石川裕子 山中紗都 松木千紗 酒巻裕之 荒川 真 特別講義 講師 株式会社 ジーシー
第43～45回		まとめ 症例報告	2回以上来学した、または2名の実習協力者についての症例報告を行う。	鈴鹿祐子
履修条件	継続・個別支援実習を履修するには, 保健医療基礎科目及び専門科目のうち, 3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。			
予習・復習	実習前には, 習得したスケーリングに関する基本技術と患者対応の基本とコミュニケーション法, 歯周病に関連する全身疾患, 生活習慣について復習することが望ましい。実習中も適宜不足している知識, 技術の復習に努めること。			
テキスト	特になし。実習ハンドブックを配布する。			
参考書・参考資料等	指定しない。実習中に適宜紹介する。			
学生に対する評価	課題 (記録, 媒体, 口腔内写真) 70%, 学習態度 (30%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	発達歯科衛生実習Ⅰ (小児) (Clinical practice of pediatric dental hygiene)	履修年次: 必修: 歯4年	単位数: 2単位 90時間 コード:DHP452	担当教員名: 科目責任者 石川裕子 〔歯科衛生士〕(研究室 教育棟 A407), 鈴鹿祐子 [歯科衛生士]、松木千紗 〔歯科衛生士〕、栗原涼子 [歯科衛生士]、 大川由一〔歯科医師〕、荒川 真〔歯科医師〕
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力、Ⅳ健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 「発達歯科衛生学Ⅰ(小児)」で修得した知識をもとに、発達期にある児童に対して、歯科衛生の視点から健全な生活習慣の確立を支援する目的で、健康教育の技術・能力等を身につける。対象となる児童の情報収集、計画立案、媒体物作成、模擬指導、実施、評価の展開方法を理解、応用できるようにする。また、障害を有する児童・生徒の在籍する特別支援学校において、障害児に対する口腔清掃技術・対応法を実務経験のある教員の支援を得ながら修得できるようにする。				
〔授業の概要〕 1. 小学校における児童の歯科衛生教育(千葉県立幕張西小学校): 混合歯列期の児童を対象にセルフケアを支援する。 2. 特別支援学校における実習(千葉県立袖ヶ浦特別支援学校): 障害児に対する適切な対応方法を習得するとともに適切な歯科保健指導を実践する。 3. 障害児の歯科治療の見学(千葉東病院): 病院における障害児歯科治療の援助方法を修得する。				
キーワード: 児童、障害児、歯科衛生教育、口腔ケア、障害児(者)の歯科治療				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1・2回	未定	ガイダンス	実習の進め方、評価について	石川、鈴鹿
第3-5回		特別講義	障害児(者)の歯科治療について	特別講義講師 千葉東病院 大塚義顕
第6-8回		袖ヶ浦特別支援学校見学 事前講義	障害児の適切な対応方法の習得	石川、鈴鹿、 松木、栗原、 大川、荒川
第9-40回		指導計画の立案、媒体作成準備	グループワーク(時間外学修を含む)	
		小学校における歯科衛生教育	学齢期における歯科保健指導の実践	
		特別支援学校における実習	障害児を対象とした歯科保健指導の実践	
		障害児の歯科治療の見学	障害児歯科治療時の援助方法の修得	
第41-45回		ふり返り 総括	ポートフォリオ(学習記録ファイル)を利用した実習の振り返りと実習の総括	
履修条件		保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次までに配当されている全ての必修科目の単位を修得済みであること。		
予習・復習		資料を配布するので、あらかじめ目を通しておき、予習・復習に活用すること。		
テキスト		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		実習評価(50%)、レポート(20%)、課題(20%)、学習態度(10%)により、総合的に評価する。		

授業 科目名	発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者) (Clinical practice of Geriatric dental hygiene)	履修年次: 必修:歯4年	単位数: 2単位 90時間 コード: DHP461	担当教員名:酒巻裕之、 佐々木みづほ[歯科医師]、 山中紗都、麻賀多美代、 西村克枝[歯科衛生士] (研究室 A408)
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅵ 健康づくりの実践 Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 老人保健施設などの役割を理解し、施設で生活する要介護高齢者の特徴を理解する。 2. 施設に勤務する多職種の役割や業務内容を理解する。 3. 高齢者とのコミュニケーション能力を身につける。 4. 要介護高齢者の病態やADLの状況を把握し、日常生活援助法について学ぶ。 5. 口腔衛生管理を実施することができる。				
〔授業の概要〕 「発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)」、「顎口腔機能リハビリテーション論」、「演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)」で習得した知識をもとに、老人保健施設などに入所する要介護高齢者の特徴や口腔の状況を理解する。対象者の病態やADLの状況を把握し、安全に留意して口腔衛生管理を実施する。事前学習として、要介護高齢者の特徴、日常生活援助法、口腔衛生管理の方法、多職種の業務、専門用語等について学ぶ。実習終了後にはグループ毎にパワーポイントを作成し、実習の報告会を実施する。学生は1班6～7人編成。5/29～6/14の期間中に施設において1班2日間の実習を行う。				
キーワード: 高齢者、老人保健施設、老人福祉施設、多職種、日常生活援助技術				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1・2回		ガイダンス	発達歯科衛生実習Ⅱガイダンス	酒巻裕之
第3回～ 第43回	未定	事前学習	高齢者施設の概要、要介護高齢者の特徴、日常生活援助法、口腔衛生管理の方法	酒巻裕之
		施設見学	施設見学とオリエンテーション	酒巻裕之
		老人保健施設・特別養護老人ホーム 実習	日常生活援助についての見学と実習 多職種(医師、看護師、介護福祉士、栄養士等)の理解 要介護高齢者の理解(病態やADLの把握) 口腔内状況に応じた口腔衛生管理の実施 実習記録のまとめ、実習の振り返り	山中紗都 麻賀多美代 西村克枝
		事後学習		山中紗都 西村克枝
第44回		報告会	実習報告会	酒巻裕之 山安紗都
第45回		義歯ケア	義歯ケアに関するセミナー	酒巻裕之 非常勤講義講師
履修条件	「発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)」、「顎口腔機能リハビリテーション論」、「演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)」を履修済みであること			
予習・復習	事前学習(課題)、事後学習により実習に関わる予習、復習を行うこと。			
テキスト	「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊			
参考書・参考資料等	「高齢者歯科学 第3版」(永末書店刊)、「専門的な口腔ケア」(医歯薬出版刊)			
学生に対する評価	実習態度(40%)、事前課題・レポート(40%)、実習報告会プレゼンテーション(20%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	歯科診療室 総合実習Ⅰ (Advanced clinical practice in dental clinic)	履修年次: 必修: 歯 3 年	単位数: 2 単位 90 時間	担当教員名: 科目責任者 松木千紗 [歯科衛生士] (研究室 A410)、酒巻裕之[歯科医師]、 大川由一[歯科医師]、荒川真[歯科医 師]、佐々木みづほ[歯科医師]、栗原涼 子[歯科衛生士]、石川裕子[歯科衛生 士]、鈴鹿祐子[歯科衛生士]、山中紗都 [歯科衛生士]
		コード: DHP431		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズムⅡコミュニケーション能力Ⅵ健康づくりの実践,				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①歯科診療室における歯科衛生士の業務内容・役割を理解し、チームの一員として行動できる。②感染 予防、医療安全を実践できる。③患者とのコミュニケーションをはかり、患者に配慮した行動がとれる。 ④歯科診療室において歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導の知識と技術を活用できる。				
〔授業の概要〕				
併設している歯科診療室において来院患者への歯科診療の実践を通して、歯科医師および歯科衛生士の実務経験のある 教員の指導の下、歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導を実施できる能力を身につける。併せて、歯科診療室での実 習以外に課題学習を行う。学生は実習評価シート、CC Snapshot を活用し、目標をもって課題に取り組むなど、実習への積 極的で主体的な態度が望まれる。実習後に知識、技術の習得が不十分な場合には、歯科診療室において自己学習を行うこ とが必要である。学生は2 班編成で「継続・個別支援実習」と本実習を行う。				
【3 年後期】10/1 : オリエンテーション, <A 班>11/25~12/20, <B 班>1/6~2/6				
キーワード: 臨床実習、歯科診療室、歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第 1 回	10/1	ガイダンス	実習の進め方、評価について	松木千紗
第 2 回~ 第 45 回	A 班 11/25 ~ 12/23	歯科診療室総合実習Ⅰ	・診療内容に応じた歯科診療補助 ・歯周組織検査と予防的歯石除去、歯面研磨 《課題学習》①医療保険について②チームステップス ③バイタルサインの測定④口腔内エックス線撮影とパ ノラマエックス線撮影法⑤オフィスホワイトニング(相 互実習)⑥プロービング(相互実習)⑦口腔外科用器材 と取り扱い⑧個人トレーの作製⑨義歯の制作過程につ いて⑩歯周外科治療と器材⑪救命救急⑫歯科材料の知 識と取扱い⑬印象材の取扱い⑭確認テスト	酒巻裕之 大川由一 荒川真 佐々木みづほ [歯科医師] 栗原涼子 石川裕子 鈴鹿祐子 山中紗都 [歯科衛生士]
	B 班 1/6 ~ 2/6			
履修条件		歯科診療室総合実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年 次前期までに配当されるすべての必修科目の単位を修得済みであること。		
予習・復習		実習前は歯科治療の流れと準備器材、歯科材料の知識と取扱い等について予習を 行こと。また、実習後に知識、技術の習得が不十分な項目は復習すること。		
テキスト		チームステップス[日本版]医療安全チームで取り組むヒューマンエラー対策 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部編 メジカルビュー社刊		
参考書・参考資料等		指定しない。必要時に適宜紹介する。		
学生に対する評価		実習評価シート、CC Snapshot、課題・レポート、確認テスト(80%)、学習態度 (20%)により総合的に判断する。		

授業 科目名	地域歯科衛生実習 (Dental public health training)	履修年次: 必修: 歯 4 年	単位数: 1 単位 45 時間 コード: DHP471	担当教員名: 科目責任者 大川由一 [歯科医師] (研究室 教育棟 A403) 鈴鹿祐子[歯科衛生士]
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅳ健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 「地域歯科衛生学」「地域歯科衛生演習」で修得した地域歯科保健活動にかかわる地域診断、計画立案、実施、評価、対象別歯科保健教育などの展開方法や地域での歯科衛生士の業務・役割を理解し、市町村保健福祉センター等における歯科衛生士業務を実践できるようにする。また、地域住民や保健福祉関係者との交流を通じ歯科保健についての意識や行動を知り、歯科保健の現状について把握する。				
〔授業の概要〕 市町村保健福祉センターにおける歯科衛生士業務・役割を理解する。また、地域で生活している人々の健康生活を支援するための地域歯科保健活動の目的、対象、内容、評価方法を実践する。実習施設は、千葉市内保健福祉センター、浦安市健康センターを予定している。本授業は大川、鈴鹿が歯科医師あるいは歯科衛生士としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 地域歯科保健活動、地域診断、歯科保健教育、多職種連携				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	7/1 ～ 7/30	ガイダンス	・実習内容、課題等について	大川由一
第 2・3 回		特別講義	・保健福祉センター等における歯科衛生士の役割	市町村所属 歯科衛生士
第 4・5 回		事前学修	・地域診断および母子歯科保健、高齢者歯科保健等における対象者別の歯科保健教育について	大川由一 鈴鹿祐子
第 6～20 回		実習	・地域における保健福祉センター等の機能 ・保健福祉センターにおける歯科衛生士の業務と役割の理解 ・地域歯科保健活動の目的、対象、内容、評価、方法の実践	
第 21・22 回		振り返り	・実習を通じての地域歯科保健活動	
第 23 回		総括	・まとめと今後の展望	
履修条件		保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年次までに配当されている全ての必修科目の単位を修得済みであること。		
予習・復習		実習に関する資料を配布するのでテキストとともに熟読し、予習・復習に活用すること。また、事前学修の課題について積極的に取り組むこと。		
テキスト		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		実習評価 (50%)、実習レポート (30%)、課題 (10%)、学修態度 (10%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科診療室総合実習Ⅱ (Advanced clinical practice in dental clinic)	履修年次:	単位数: 2 単位 90 時間	担当教員名: 荒川真 (研 究室: A405)、大川由一、 酒巻裕之、佐々木みずほ 〔以上、歯科医師〕、栗原 涼子、鈴鹿祐子、松木千 紗、山中紗都、石川裕子 〔以上、歯科衛生士〕
		必修 歯 4 年	コード: DHP432	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム Ⅱ コミュニケーション能力 VI 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① 併設している歯科診療室において患者への歯科診療の実践を通して、それまでに修得した専門科目 や歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導の知識と技術を統合し、患者に合わせた歯科衛生業務を習得することを目 標とする。②歯科診療室において歯科衛生士の業務と役割を理解し、チームの一員として行動することができる。				
〔授業の概要〕				
関連実習で得た知識、経験を生かして人々の口腔を通じた全身の健康維持・増進を目的に支援方法を学ぶ。実習では、歯 科医師、歯科衛生士教員の指導の下、歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導を実施する。併せて、歯科診療室での実 習以外に課題学習を行う。				
学生は実習評価シート、CC Snapshot を活用し、目標をもって課題に取り組むなど実習への積極的で主体的な態度が望まれ る。知識、技術の習得が不十分な場合には歯科診療室において自己学習を行うことが必要である。学生は 2 班編成で「継 続・個別支援実習」と本実習を行う。				
キーワード: 臨床実習、歯科診療室、歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第 1 回 ～ 第 45 回	4/8 ～ 5/31	歯科診療室総合実習Ⅱ	・ ガイダンス ・ 歯科診療室における歯科衛生業務 ・ 患者の歯周組織検査、TBI、予防的 歯石除去、歯面研磨の実施、業務 記録 〈課題学習〉 ①頭部エックス線規格写真の撮影 と分析 ②矯正用器材と取り扱い ③模型の計測と分析 ④確認テスト 等	各教員 (当日に診療室 へ出ている者)
履修条件		保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年次前期までに配当されているすべ ての必修科目の単位を修得済みであること。		
予習・復習		3 年次後期「歯科診療室総合実習」で学んだ内容について復習した上で実習に 臨むこと。課題学習については予習を行うこと。		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		指定しない。必要時に適宜紹介する。		
学生に対する評価		実習評価シート、CC Snapshot、課題・レポート、確認テスト (80 %)、学習態 度 (20%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	卒業研究 (Graduation Thesis)	履修年次: 必修:歯3-4年	単位数:2 単位 60 時間 コード:DHR480	担当教員名: 科目責任者 石川裕子 [歯科衛生士] (研究室 教育棟 A407) 大川由一 [歯科医師]、酒巻裕之 [歯科医師]、 島田美恵子、鈴鹿祐子 [歯科衛生士]、荒川 真 [歯科医師]、佐々木みづほ [歯科医師]、 山中紗都 [歯科衛生士]、松木千紗 [歯科衛生 士]、佐久間貴士、栗原涼子 [歯科衛生士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽, Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 自分の興味や将来の方向性に沿った研究テーマを選定し、計画立案に基づいた研究を実施、その結果を論文にまとめ成果発表を行うことによって、研究への理解と意欲を培う。				
〔授業の概要〕 卒業後に歯科衛生学を創造的に推進する能力を身につけるために、専門領域で学習した緒問題の中から、自らの関心・将来の方向性に基づき、主体的に研究テーマを設定し、さまざまな研究手法を用いて担当教員の指導のもとに研究活動を行い、研究論文を作成する。また指導計画や研究成果をスライド・口述の形式で発表経験をすることで、プレゼンテーションの方法や技法を学ぶ。歯科医師・歯科衛生士の実務経験により研究指導を行う。				
キーワード: EBM、文献検索、研究計画、論文作成、プレゼンテーション				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第1回		オリエンテーショ ン	卒業研究の概要、研究テーマに対する考え方	石川裕子
第2回		研究の方法	研究の進め方、論文作成の手順	石川裕子
第3-7回		研究テーマの検 討、 研究計画の検討	研究テーマの検討および文献検索 研究テーマに基づく研究計画の検討 研究計画立案・決定	石川裕子 大川由一 酒巻裕之
第8、9回		倫理審査	倫理審査申請、修正、承認	島田美恵子
第10、11回	7月 下旬	中間発表	中間発表用抄録の作成 Teams 内発表および計画の再検討	鈴鹿祐子 荒川 真
第12-21回		研究の実施	研究計画に基づく研究の実施、データ解析	佐々木みづ ほ
第22-27回		研究論文作成	論文完成、提出、論文校正	山中紗都
第28、29回	12/19 予定	研究成果発表	成果発表用抄録・スライドの作成 成果発表に基づき論文内容の検討	松木千紗 佐久間貴士
第30回		研究の評価	論文および全体の評価、研究資料の保管方法	栗原涼子
履修条件		3年次前期までに配当されている全ての必修科目の単位を修得済、または単位取得見込みであること。		
予習・復習		予習としてテキスト関連部分を熟読する。復習としてテキストの見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生研究の進め方, 論文の書き方 (第3版) 日本歯科衛生学会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		卒業研究論文 (40%)、成果発表 (20%)、学習態度 (40%) により評価する。		